

- SLOC 通信XVII -

ロコモティブシンドロームの認知度をあげることが急務です

理事・全国ストップ・ザ・ロコモ協議会副理事長 長谷川利雄

第2次健康日本21では、2024年までにロコモティブシンドローム(以下、ロコモ)認知度を80%にアップさせる目標が設定されています。国が運動器の健康に注目したことは、健康寿命の延伸のために至極当然なことであり、私たちにとり画期的なことです。本会も全国ストップ・ザ・ロコモ協議会(SLOC)も全国への啓発活動に取り組んできましたが、2017年からの認知度は、46.8%と伸び悩んでいます。

私の危惧：1. 若年層への啓発が不十分なようです(女性20歳台認知度30.4%)。2. ロコモ講演などの参加者の認知度は決して低くないので、不参加者への啓発の工夫が必要です。3. 専門医研修卒後研修Q&A改訂第7版(南江堂)の索引にはロコモの記載はありません。ロコモを知らなくても専門医になれるのです。4. ロコモを専門に対応する日整会の委員会の整備(現在は広報渉外委員会→ロコモチャレンジ推進協議会：広報渉外委員会の負担大)。5. SLOCと日整会ロコチャレの協調体制に確立(SLOCはNPO法人であり公益性の高い法人であり、各都道府県臨床整形外科医会会長が会員となっていて全国ネットワークを有する。公益性は地方公共団体との協働にとって必須です)。

2024年までロコモ認知度が低ければ、第3次の健康日本21から、運動器の健康は削除されな
いまでも「ロコモ」は消失し、厚労省にとって便利な言葉に置き換わっている蓋然性が低くあり
ません。ここは、整形外科医全員が危機感を持ち、ロコモ啓発に邁進しなければなりません。最
早残された時間は多くはないのです。